



Case学習メモ

このメモについて

このメモは、Caseを読んで「正解」を書くためのものではありません。

Caseを読む前に、自分はどこを見ていたか。

解説を読んだあと、何が増えたか。

最初の自分の見方は、どんな問いに変わったか。

それを残すためのメモです。

全部埋めなくても構いません。

Caseを分析しきるのではなく、Caseを通して自分の見方を振り返ること。

第2巻では、

本人だけを見るところから、本人と周囲との「あいだ」へ、自分の視点が広がったか

も振り返ります。

それ自体が学びになります。

安全に関わるCaseでは

安全に関わることが起きているときは、

このメモより先に、まず安全を守ります。

安全が確保されたあとで、自分がその場面をどう見ていたか、本人理解と他者の安全・権利をどう考えていたかを振り返ります。

STEP 0

このCaseから、今の自分が得たいこと

- | | |
|--|---|
| ☐ 自分がどこを見て判断しているか知りたい | ☐ 本人だけに理由を置いていないか振り返りたい |
| ☐ 自分の「当たり前」や期待に気づきたい | ☐ 本人と周囲との関係へ視点を広げたい |
| ☐ 「伝えた」と「届いた」の違いを考えたい | ☐ 本人が表したことと、自分の読み取りを分けてみたい |
| ☐ 自分の支援場面へ持ち帰れる問いを見つけたい | ☐ 今はまだ、何を得心のかよく分からない |
| ☐ その他 | |

その他

STEP 1

Caseを読む前の自分

Case番号・タイトル

1

最初に選んだ選択肢・見方

2

なぜ、それを選びましたか？

そのとき、自分は何を見てそう考えましたか？

STEP 2

解説を読んだあと

3

自分が見ていたこと

最初の自分は、何に目を向けていたでしょうか。

- | | |
|-------------------------------------|---------------------------------------|
| ☐ 本人の行動 | ☐ 本人の言葉・表情・伝え方 |
| ☐ 相手の行動や関わり方 | ☐ 活動・ルール・役割 |
| ☐ 予定・時間 | ☐ 情報の伝わり方 |
| ☐ 周囲の人・集団 | ☐ 場所・物・環境 |
| ☐ 安全・権利 | ☐ その他 |

気づいたこと

4

まだ見ていなかったこと

解説を読んで、「自分はここを見ていなかった」と気づいたことはありますか？

3つの見方から、気づいたこと

全部書かなくても構いません。

自分の最初の見方と比べて、気になったところだけ使ってください。

5A | ABA

ABAから気づいたこと

本人の前後で起きていたことや、条件の違いへ目を向けたとき、自分の見方に何が増えましたか？

5B | ICF

ICFから気づいたこと

本人だけではなく、活動・参加・他者・環境との関係から見たとき、自分の見方に何が増えましたか？

3つの見方から、気づいたこと

5C | Structured TEACCHing

Structured TEACCHingから気づいたこと

本人が必要な情報を確認できる状態だったかという視点から見たとき、自分の見方に何が増えましたか？

3つの見方から一つの正解を決める必要はありません。

STEP 3

自分の見方を少し離れて見る

6

最初は、どんな言葉で本人や場面を見ていましたか？

例：

- ・待てないと思った
- ・参加していないと思った
- ・分かっているのにしないと思った
- ・何も伝えていないと思った
- ・会話が噛み合わないと思った

7

その見方の中に、自分の「当たり前」や期待はありましたか？

たとえば、

- ・みんなと同じように参加すべき
- ・順番を待つべき
- ・説明したら分かるはず
- ・質問には答えるべき
- ・会話はこの話題に沿うべき

などです。

自分を責めるためではなく、自分がどんな基準で場面を見ていたかを知るために振り返ります。

STEP 3

自分の見方を少し離れて見る

8

今は、どんな問いに変わりましたか？

STEP 4

実際の支援へ持ち帰る

9

似た場面があったら、次に自分は何を見てみたいですか？

本人だけでなく、

相手・活動・情報・環境・自分の関わり方

の中から、今気になるものを一つだけでも構いません。

10

自分の関わりで、一つだけ見直してみたいこと

本人を変える方法を急いで考える前に、

自分の伝え方、待ち方、質問の仕方、情報の示し方、期待していること

なども振り返ります。

STEP 5

読む前と比べて、何が見えてきましたか？

- | | |
|---|---|
| ☐ 自分がどこを見て判断していたか分かった | ☐ 本人だけに理由を置いていたことに気づいた |
| ☐ 相手の関わり方にも目が向いた | ☐ 活動・情報・環境の条件にも目が向いた |
| ☐ 「伝えた」と「届いた」を同じにしていたことに気づいた | ☐ 本人が表したことと、自分の読み取りを分けて考えた |
| ☐ 自分が期待していた「参加・会話・理解」の形に気づいた | ☐ 自分の関わり方も場面の条件だと考えるようになった |
| ☐ 「まだ分からないこと」が見つかった | ☐ 新しい問いが生まれた |
| ☐ 実際の支援場面で見てみたいことができた | ☐ 特に変わらない |
| ☐ まだよく分からない | ☐ その他 |

今、残っている問い

答えが出なくても構いません。
最初とは少し違う問いが生まれたなら、それもこのCaseから得た学びです。

このメモで大切にしたいこと

このメモの目的は、本人を評価することでも、自分を評価することでもありません。

Caseを通して、「私はこの場面をどう見ていたのだろう」と自分へ問い返すこと。

そして、

次に本人と向き合うとき、自分は何をもう一度見てみたいだろう。

という問いを持ち帰るために使います。